

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0309 ◆◆◆

14/12/17

【 2014 年の為替・金融業界 10 大ニュース 】

今年も残り 2 週間ほどになった。そこで少し早いですが、今回の当レターでは年末恒例である筆者の独断と偏見で選出した今年一年の「為替・金融業界 10 大ニュース」を報じてみたい。読者の皆さんの考えるニュースは果たしてランキングしているだろうか。

◎日米欧の金融政策が相場の波乱要因、「歴史に残る一年」に!?

まずは筆者の考える「為替・金融業界 10 大ニュース」を以下ですべて列挙、そのあとで簡単な解説や講評などを記してみたい。

- 1; 日銀が追加金融緩和実施、黒田日銀の「円安バズーカ」第 2 弾炸裂
- 2; イエレン氏が議長に就任したFRBが「出口戦略」を実施
- 3; 原油価格が大幅安、WTIは一時 50ドル台も
- 4; ECBがマイナス金利導入
- 5; 消費税 8%がスタート、10%への再増税は先送り決定
- 6; 米中間選挙で政権与党の民主党大敗、オバマ大統領の政権運営にも打撃
- 7; ロシアが「クリミア共和国」を承認するなど、ウクライナ危機が深刻化
- 8; 英北部スコットランドで独立住民投票実施
- 9; 過激派組織「イスラム国」が勢力拡大、問題行動も多発
- 10; 2年ぶりの12月衆院選で自民党が大勝

番外; デング熱・エボラ出血熱騒動、日本人 3 氏がノーベル物理学賞を受賞、羽生結弦くんや錦織圭くんなどが世界のスポーツ界で大活躍、STAP細胞論文に改ざん不正などが発覚、号泣県議やセクハラヤジなど国政も含め政治家のトラブル多発、朝日新聞が慰安婦報道の一部を撤回、3年ぶりに日中首脳会談実施、NY証券取引所にアリババ上場、香港で民主化を求める大規模デモ発生ー(順不同)

当レターでも何度かレポートしたように、今年の為替相場は途中まで記録的な小変動。それも、ドル/円だけでなくユーロ/ドルやユーロ/円なども小動きで、それこそ「歴史に残る一年」かと思われたが、その後大荒れの展開をたどると、結果、例年並み程度の変動は達成をした。その原動力となったニュースのひとつが、日米欧を中心とした各国の金融政策で、筆者はそれを 1 位と 2 位もそして 4 位にランクインさせた。やはり、幾つかの意味で思い入れが深い。良いか悪いか定かではないが、ある種の転換期を迎えたということで、後年まで記憶に残る一年になるような気もしないではない。

一方、それとは別に、今年は地政学リスクというか世界各地での政情不安が多発したこと、日本で政治家によるスキャンダルやトラブルが多発したことも記憶に新しい。前者については、ランキングでいうと 7 位や 9 位がそれに当たるが、それら以外でも南シナ海をめぐる中国とベトナム、フィリピンの対立や、タイ・中国・台湾などでクーデターやテロが発生、イスラエル軍のガザ侵襲ーなど枚挙に暇がなかった。そうした多くの問題は、いまだ処理されておらず来年へと持ち越される可能性が極めて高いために、2015 年も世界の政情不安、地政学リスクの高まりが為替のみならず市場全体の波乱要因となる危険性を秘めている。

なお、年間十大ニュースを取り上げる際、どうしても暗いニュースにばかり目が向きがち。ランクインするものも、総じて暗いニュースが多くなる傾向にある。実際、前段で取り上げたものの多くが「暗いニュース」に分類されるものだろう。難しいことはわかっているが、来年は「日本人 3 氏がノーベル物理学賞を受賞」「羽生結弦くんや錦織圭くんなどが世界のスポーツ界で大活躍」「富岡製糸場が世界文化遺産に」ーのような「明るいニュース」をランキングで数多く見てみたいものだと思う。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

